

東北大学量子エネルギー工学専攻におけるこれまでの原子力共生教育活動

The past educational activities for atomic energy partnership in Department of Quantum Science and Energy Engineering, Tohoku University

*藤原充啓¹, 高田修司¹, 寺川貴樹¹, 新堀雄一¹, 長谷川晃¹, 石井慶造¹,

¹東北大学

東北大学量子エネルギー工学専攻では、原子力共生教育活動を2005年度より本格的に行っており、継続的な市民講座や小、中、高校生を対象としたエネルギーに関する体験型出前授業を行う事によるエネルギーおよび原子力教育を展開している。今回はこれまでの活動経緯や概要の紹介と現在の活動状況やその効果検証結果。さらに、今後の活動方針についての報告を行う。

キーワード: 原子力教育、放射線教育、エネルギー教育

1. 緒言

安定した電力を供給することが可能な原子力のエネルギー利用は、化石燃料だけのエネルギー供給が困難となりつつある今日では、今後も継続させる必要があり、そのためには、原子力と地域住民とが、如何に共生していくかと言うことが大変重要な課題の一つとなる。そこで、一般市民と原子力関連研究者とが一緒になって、原子力利用の在り方について意見を交わし、希望ある日本の原子力利用を相互理解のもとに考える場を創るため、原子力立地サイトに原子力教育のための現地拠点を形成し、課外体験学習、オープンスクール、フォーラム講演会の開催を定期的に行うことにより、様々な切口による原子力共生のための一般向け原子力教育を行う事が大変重要である。

東北大学量子エネルギー工学専攻では、2005年度より、最近接原子力発電所立地サイトである宮城県女川町に原子力共生活動の拠点を作り、継続的な市民講座や出前授業による原子力教育を展開する試みを行っている。また、2007年度より、青森県六ヶ所村にも新たな拠点を設置し、同地区での活動展開を開始した。これら原子力教育の試みは2011年3月の東日本大震災後も各拠点との連携をさらに密接にすることにより毎年途絶えること無く継続させる事ができ、現在では活動への大学生、大学院生の参加を積極的に勤めると共に、他団体との連携により、更に進展させるための試みを行っている。

2. 発表概要

本発表では、これまでの当専攻の原子力共生教育活動について(進展経緯も含む)の紹介を行い、現在取り組んでいる更なる活動発展のための「大学院授業としての単位化」や「他団体・他組織との連携」について報告する。また、これまでの活動に参加した学生に対して実施したアンケートや、授業を受けた生徒に対して実施したアンケートの調査結果を報告し、これまでの活動状況を振り返り、今後の活動の展開における目標を明らかにすると共に、参加学生に対する原子力教育活動参加による教育効果の検証と受講生徒に対する原子力・放射線・エネルギー関連教育の効果についての検証も行う。

* Mitsuhiro Fujiwara¹, Shyuji Takada¹, Atsuki Terakawa¹, Yuichi Niibori¹, Akira Hasegawa¹ and Keizo Ishii¹

¹Tohoku Univ.